

あなたが教師として意識している「根っこ」は何ですか。



踏みにじられても
食いちぎられても
死にもしない
枯れもしない
その根強さ
そしてつねに
太陽に向かって咲く
その明るさ
わたしはそれを
わたしの魂とする

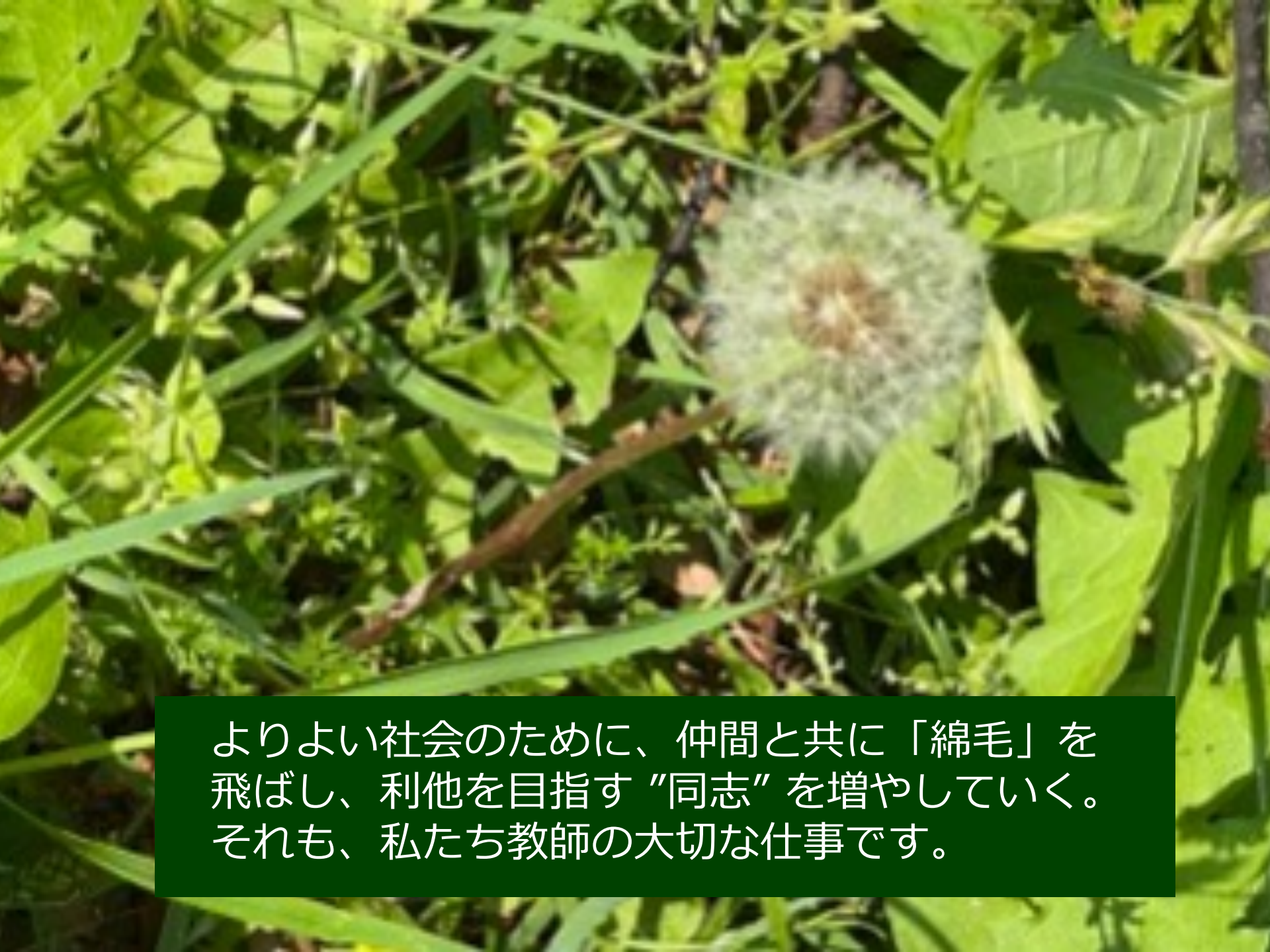


坂村真民「タンポポ魂」

蒲公英 — 生命力の強い雑草であり、道路のアスファルトの隙間、石垣の間など、どんなところでも**自生**します。他の植物が生きていけないような厳しい環境でも生育できます。また、根さえ残っていたら、必ず**再生**します。

私たちの仕事は、このタンポポのようなたくましい生徒を育てること、自律的学習者を育てることです。





よりよい社会のために、仲間と共に「綿毛」を飛ばし、利他を目指す“同志”を増やしていく。それも、私たち教師の大切な仕事です。

先生の授業をうけてわかったことは、
 英語は「勉強、なんかじゃなく、
 「言葉、だ」ということ。教科書の言志面
 を埋めるための単語の羅列じゃなく、
 単語は「っっ生きる、生物だ」と
 いうことを肌で感じた。
 生きる言葉で、世界中の人達とお喋り
 できたら素直だ、って、心から感じた。

一年間の感想

すごく豆真に入った。学テテストでもはじめ20点だったのが31点とか、すごくのびていったので"すごくうれしかった。自分は前よりも授業を必死で"うけるようになったけど、家で"それほど勉強しなくても(といかもたたくしなくても)いい点"がとれるようになったのでうれしかった。中しま先生の授業は楽しくて、魔カミみたいのがはたらいて豆真に「糖分」をくれるようになったです。とてもすきり!! 楽しかったです。高校へ行って"も先生とやりたいたまあ、"といつか「つれていきたいたまあ(笑)」。"それほど大好きでした。昔の英語はやっぱり長くてずっと"遊んで"点数も最低(笑)だったのに、今はもっと長くやりたいたまあのです。サスが中しまマシマシ!! 哥々もおもしろかったです。先生のほかの先生とちがう授業"たいせいか"大好きです。これからも先生が人になって下さい。"あ"り"び"と"う"ご"さ"い"ま"し"た。

1年間、すごく楽しかったです。

洋楽も、本格的に習ったのは、はじめてでした。

今では、洋楽が大好きになってしまいました。

文法などでも、頭はスーッと入っていったり。

おー、なるほど。と思うことがたくさんありました。

映画で、言っていることが聞きとれたときは、とてもうれしかったです。

ペア学習では、ペアの人に、教えた、教えられた、とてもためになりました。

授業のときに歌った洋楽を聞くと、その時の様子もいっしょに思い出さることがしばしばあります。(他の授業はこんなことはない。)

高校に入ってから、中山鳥先生の授業をうけられないと思うと、とても悲しいです。

自律的学習者を育てるための格言

教師の側から **知識** を授けるよりも、まず知識をもとめる **動機** を子どもたちがもつような学校が真の学校である。

大人が急がせようとする、「動機」や「意思」よりも効率ばかり考えるようになります。デューイは、「人間は自己更新をする」と言いました。自己更新に必要なのは、振り返りの場面と適切な評価ではないでしょうか。



J・デューイ

自律的学習者を育てるための格言

教えることのできない **子ども** というものはない。
あるのは子どもたちにうまく教えられない **教師** と
学校 だけである。

せっかちに、答えを教えようとするのではなく、子どもにきちんと説明をさせることで、こだわりをもち、よい準備をするようになります。



M・アドラー
アドラー心理学

自律的学習者を育てるための格言

言葉 で説教するよりも

あなたの生き方そのもの がよりよい説教となろう。

言葉で説得するのではなく、大人の背中を見せること、つまり、言っていることとやっていることが同じであれば「納得」し、素直になります。



オリヴァー・ゴールドスミス

英国の詩人、小説家、劇作家

自律的学習者を育てるための格言

教育の秘訣は **子どもを尊敬すること** である。


間違いやあら探しではなく、子どもの考えに「へえ、すごいね」と感心すること、継続してできるようになったことを褒めてやることで積極的な子どもが育ちます。



教育学者 エマーソン

たったこれだけの土で、根がつかます。
それが子どもの力です。





根を丈夫にすると、
立派な幹になり、
きれいな花を咲かせます。

相手ファーストの人は、いいところを見つけるのが得意です。だから、その人の周りは笑顔で溢れています。

ぜひ、あなたの笑顔で周りの方を元気にしてあげてください。

ご清聴ありがとうございました。

END



事前にいただいた質問への回答

◆質問1

アプリ等での翻訳機能の精度が上がっており(例えば写真で英文を撮るだけで翻訳できてしまう)、その機能を頼りにしすぎてしまう生徒が一部おります。自分自身で英文を理解するたのしさを伝えるためにどんな声かけができるでしょうか。

❖家で宿題をやって提出するというやり方をやめる。

❖辞書競争を楽しく行う。

❖マンダラートを使って言い換える訓練をする。

❖ノートを三段に分け、次のように書く。(提出)

①自分の考えた英文をまず書く(3点)

②下にアプリで訳したものを書く(2点)

③2つを比べて自分が学んだこと、今後自分の力でできるようになりたいことを書く(5点)

◆質問2

中学校入学段階で英語に苦手意識がある生徒が前向きに学習に取り組めるようにするには、どのようなアプローチをしていけばよいでしょうか。

❖発音指導(リピーティング)、思考ツールを使った活動を位置付ける。

❖英単語や文化のAハ情報を教える。

◆質問3

授業で毎回Today's goalを提示し、振り返りを書かせています。Today's goalは、「~しよう」ではなく「~できる」とCAN-DOのように提示しているので、ほとんどの振り返りが「~できた」「~できなかった」というものばかりです。振り返りは、わかったことや気がついたこと、できたこと、次に取り組むことを書くように伝えているのですが、なかなか変わりません。振り返りを「まとめ」として、自分の言葉で、学んだことを書かせたほうがいいのでしょうか。

❖ ルーブリック、CANDOを生徒用のものを作成して渡す。それを意識した振り返りを位置付ける。

❖ 毎時間、評価シートを配ってる書かせるのではなく、単元でまとまった評価シートを用意。書くのは①できるようになったことの内容②まだモヤモヤしていること、③教師がお題を出し、それについて英語です書く④TTの授業の時はNSにメッセージを書く。

◆質問4

頑なにペア・グループ活動を拒否する生徒達に手を焼いています。自分達を同質の集団と考えて、互いを牽制しあっている部分もあり、受身の課題ならやらない訳ではないので、持ちかけ方が間違っているとの自覚があります。打開策をご助言いただきたいです。

❖ よいモデルを作る(育てる)

❖ 価値観偏差を大事にする(答えが一つになるような事実発問ばかりではなく、推論発問や評価発問を入れる)

❖ 競争ではなく、協力し合うような活動、知恵を出し合う、刺激をもらって得をしたという活動にする

◆要望

先生が単元の計画を立てる際に気を付けているところ、「つながりがあること」「どのような力をつけたいかからの逆算した計画」などがあると思われませんが、そこを改めて具体的に教えていただきたいです。

◆単元計画では、「のりしろ」と「総括」が大事。(講義の中で説明します)

◆バックワード・デザインに基づく単元計画など、私自身も意識をして授業づくりをしています。まだまだ試行錯誤中ですので、当日は様々学ばせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

◆ゴールは実際に育った姿。そこから逆算し、いつまでに何をどのように指導すればいいか、全体構想を練る。

◆教科書の内容の指導を6~7割、残りはインタラクションを中心に「スキル・トレーニング」(聞き取れる、質問ができる、話せる、まとまった内容が書ける)を行う。